

農芸同窓会会報

編集・発行
三重県立四日市農芸高校
同窓会事務局
〒510-0874
四日市市河原田町 2847
TEL 059-345-5021
FAX 059-345-6996

ご挨拶



同窓会副会長 岡本 文夫
(高校第十七回・昭和四十年卒)

初冬の候 同窓会の皆様いかがお過ごしで

しょうか。長期に亘る新型コロナウイルスも第五類に移行され、世の中も少しづつ以前に戻りつつある様に思い

ますが、今後健康面には充分気を付けて下さいますようお願い申し上げます。

さて突然ですが、現会長の大橋徳紀様が去る四月に卒然としてご逝去されました。同窓会会長として大変お世話になりました。ありがとうございます。何卒この趣旨をご理解いただき、特段の支援を賜りますようお願い申し上げます。

尚、八十周年記念事業実行のメンバーとして、別府様、大久保様、岡安様、金谷様、加藤様、阿部様、中川様にもお世話になりました。ありがとうございます。

百周年実行委員として来年度役員の皆さまにもお世話願いました。事業を遂行致したく思う次第であります。かさねてお願い申し上げます。

毎回同窓会会報を送って来て有難う。自分は戦後間もない昭和二十三年に入学をしました。当時は走行する関西線の蒸気機関車の本数も少なく、困難する列車で桑名駅から通っていた。街では未だ木炭を焚いて走っている貨物自動車を見掛ける時代でした。今では考えられない。まだまだ物不足とあって配給制度が残っていた。学友の中には少年航空隊に参加して居て、復員されて入学された方が数年の年の離れた学友が数人居りました。

学業では家畜を飼ったり養蚕を実習したりし、又田圃や畑には化学肥料ではなく糞尿を使って野菜や稲を育てていました。自分達が畑で育てた野菜の中で成熟したトマトをその場でもぎとり口にしたら時の美味い味がしたことは今でも忘れられない。当時学校の倉庫には埃りを被って古びたオート三輪が放置されて居ました。学友の中に家に親が色々な車を所有して居られた友人が居て、二人で休憩時間を利用して三輪車をエンジン、クラッチ、ブレーキ等全て解体してガソリンを使って洗ひ始動する様に学校の作業援助にも役立てました。当時は免許証を得るには満十六才に成らないと試

長は代理として残任期間を引き継がせていただきます。御協力の程よろしくお願います。

そして本校は令和十一年二月に百周年を迎えます。つきましては同窓会、PTA、学校の関係者各位のご理解を得まして事業を遂行致したく、特に卒業生、旧職員、地域の皆様の絶大なご支援ご協賛をお願いしたいと存じます。何卒この趣旨をご理解いただき、特段の支援を賜りますようお願い申し上げます。

校元教諭である野崎智裕様の寄稿文(一部省略)が掲載されていきました。「戦後の占領期における目まぐるしい教育改革が続く中で昭和25年度河原田高等学校(四日市農芸高校の前身)校長であった下河茂嗣氏が、知人を介して壽岳文章氏(英文学者、関西学院大学文学部教授)に校歌の作詞を依頼した。その申し出を受諾した壽岳氏がその年に学校を訪問し校歌歌詞を創案する。その後同氏と交誼が深い作曲家の大澤壽人氏(音楽家、神戸女学院大学教授)に作曲を依頼して完成した楽譜が昭和26年2月28日に学校に送ら

れている。「いくつもの縁が重なって成った校歌は下河校長先生の使命感と次世代育成への情熱、豊かな日本語の使い手の壽岳氏の絶妙な言葉のセンス、東洋も西洋も音の神髄を極め得した作曲家大澤氏の超絶技巧がほどよく調和して、今も愛唱され、この河原田の学びやを、このふるさととする若人たちが育む糧としてこれからも末永く歌い継がれていくことでしょう。」

学校現場や教育状況は日々刻々と変化しており、特に近年は加速度的に変貌しています。その影響は必ずしも追い風ばかりでなく、かなり苦しい向かい風もたく

側に行き話し掛ければ良いのだが当時は中々勇気が無く気後れがして近付くことすら出来なかつた。小柄が目が大きく可愛く思った。色々な思い出多き青春でありました。

本校の教育活動



校長 中田 直人

同窓会員の皆様には平素より本校の教育活動に對して、温かいご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の教育活動の様子でございますが、6月の体育祭(四日市市中央陸

上競技場)では伝統のフオーダンスも復活し、10月の2年生修学旅行は北海道へ行きました。最終日は行き先である小樽地方で暴風警報が発令され、千歳空港で4時間ほど過りましたが、これもよい思い出となりました。授業実習行事、農業クラブ家庭クラブ活動や部活動等、感染症対策を行いな

がら、ほぼ従来通りの活動を行うことができました。11月の農芸祭につきましては限定公開(保護者、中学生、卒業生、河原田地区住民等)という形で開催させていただきました。来場者が約2,500名であり、盛大に行うことができました。今後感染防止を図りながら教育活動を続けていき、農芸高校を盛り上げていきたいと思ひます。

そして、本年度から集会等での校歌斉唱も復活しました。コロナ禍の中、昨年度まで残念ながら私は心の中でしか歌ったことがありません。農芸高校の校歌は不朽の名作です。「創立八十周年記念誌」に本

最後になりましたが、同窓会員の皆様には今後とも本校生徒の確かな成長を温かく見守り、応援してくださいませよう、また、引き続きさらなる本校の発展のためにご支援とご協力をお願い申し上げます。結びに、会員の皆様の益々のご健康とご多幸を心より祈念いたしております。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。自分は戦後間もない昭和二十三年に入学をしました。当時は走行する関西線の蒸気機関車の本数も少なく、困難する列車で桑名駅から通っていた。街では未だ木炭を焚いて走っている貨物自動車を見掛ける時代でした。今では考えられない。まだまだ物不足とあって配給制度が残っていた。学友の中には少年航空隊に参加して居て、復員されて入学された方が数年の年の離れた学友が数人居りました。

学業では家畜を飼ったり養蚕を実習したりし、又田圃や畑には化学肥料ではなく糞尿を使って野菜や稲を育てていました。自分達が畑で育てた野菜の中で成熟したトマトをその場でもぎとり口にしたら時の美味い味がしたことは今でも忘れられない。当時学校の倉庫には埃りを被って古びたオート三輪が放置されて居ました。学友の中に家に親が色々な車を所有して居られた友人が居て、二人で休憩時間を利用して三輪車をエンジン、クラッチ、ブレーキ等全て解体してガソリンを使って洗ひ始動する様に学校の作業援助にも役立てました。当時は免許証を得るには満十六才に成らないと試

懐かしい思い出

柴田 秀雄
(高校第二回・昭和二十五年卒)

毎年同窓会会報を送って来て有難う。

現在と違って街では乗用車の数も少なく、学業を終えて社会に出て仕事するには自動車の免許証が必要で多くの人が受験して居ました。合格率も低くかつたと思うが我々二人は学科も実地試験を二度で合格したので他の人から羨しまれて居ました。

三年学級の或る日学校制度改革があると聞かされましたが何の事か判らなかつた。その為か他の学校の生徒さんが当校に編入されて来られたのを見受けました。その中に或る日の休憩時間に学校のグラウンドの緩やかな土手の草むらに二人の女子生徒を見受けました。

それからは毎日の様に二人が話し合っている様子を見受け友達に成れないか話をしたのだが、残念だが男子校で女子生徒を近くで見るとは初めてであり虜に成りました。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。

毎日同窓会会報を送って来て有難う。